



No. 171

ティークレイク

## Tea Break

高尾梅郷逍遥の記

会員 三宅 正夫

東京新聞の筆洗に、宇宙飛行士の野口さんが百六十三日の宇宙滞在を終えて帰還した後語った言葉として、下記のように記している。即ち、地球に戻ってよかったと感じたこととは？、との問いに「水ですね、水。流れる水、これはいいですね。水が流れているっていうことのがたさというものを実感します。飲む水もそう、体に浴びる水もそうですが」。

山合いのせせらぎを求めて高尾に。高尾は昭和35年まで浅川と呼ばれた処で大正、昭和両天皇陵がある。その地にそびえる高尾山は古くから東京近在の小学校の遠足の場として、また一般人のハイキングの山として親しまれているが、最近フランス、ミシュランの本で日本の名山の1つとして紹介されたこともあって、外国人を含め登山者が多くなった。一方、八王子から南に“圏央道”という高速道路が伸びて来て高尾山を貫通し周辺の山肌は処々で削られ、新旧両甲州街道を横断する太い橋桁が林立している。つい数年前は田畑も、農家も（たった一軒だったが）あったのに、今やその跡形は全くない。新宿から富士山、信州松本方面に向う中央道ハイウェイだけでも目障りであるのに、景観を害することおびただしい。開発がひどすぎる。その高尾山（北側）とそれに対向する裏高尾山の山々との狭い谷間に、互いに押合うようにJR中央線、旧甲州街道、小仏川が東西に、中央線の線路を最上段、甲州街道を挟んで小仏川を最下段とする階段状になっている。小仏川右岸は高尾山の裾となっていて垂直な岩肌が処々でむき出ししている。

JR中央線高尾又は京王電鉄高尾の、甲府に向って右側出口、小仏行きバスで旧甲州街道の蛇滝口下車。“蛇滝”については、その昔獵師に殺されそうになった白蛇が俊源大徳に助けられ、その御礼に滝修行の場を探していた大徳のために白蛇が滝に化身した、という言伝えがあるが、実際は上記バス停前の蜂尾さんの4代前の安五郎さんという方が水音を聞いたので掘ったとのこと。上

記バス停の向い側に「東高尾荒井遺跡縄文時代、平安時代の集落跡」及び「いのはな慰霊碑入口」なる立札が立っている。前者については一寸何処にあるか判然としないが、後者についてはその立札から約30メートル右手に登った中央線下り、新井踏切の木立中（トンネルより約200メートル手前）の慰霊碑によると、昭和20年8月5日、真夏の太陽が照りつける午前12時2分頃、満員の新宿発長野行419列車がトンネル東側にさしかかった時、米軍飛行機P51の2、3機から銃撃され52名が死亡、133名の重軽傷者を出したとのこと。その名前が判った44名の名が刻まれている。下は5才、16才から上は70才。此処蛇滝口は富士見台を經由して八王子城趾まで60分の登山口でもある。

バス進行方向に、前述の圏央道の陸橋が裏高尾側の山肌を削りとってせり出し、約20メートルに垂れんとする高さで旧甲州街道を大きく跨ぎ、対向する高尾山腹に突入する形で居座っている。その橋下の“蛇滝道場入口”なる案内で左折、約60メートル先の橋の手前の一段低くなった梅林に“高尾梅郷”の案内板があって、「小仏川の流れに沿ってのどかな風景が広がり、懐かしい山里の雰囲気が残っている。裏高尾では春の訪れを伝える梅の香りが辺り一帯をやさしく包み込み数カ所の梅林と民家の庭先や畑、山の斜面に紅梅、白梅、薄桃色、色とりどりの梅が咲き誇り、道行く人の目を楽しませる。蛇滝口よりJR高尾駅まで徒歩約50分」と記されている。その草原の約1.5メートル下に小仏川の溪流。圏央道下を潜って右側に現れる中州に降り立つ。右岸からせり出した樹の枝で掩われて陰の水辺となっている。灰、薄茶色の砂礫でできた川底が足首までの深さですき通って見え、やや黒い滑らかな肌を水面上に僅かに露した岩塊が対岸に跳び渡れそうに点在し、水に大きな抵抗となって急流を作ったり、白い波頭を立てている。流れる水音が耳にやさしい。

橋を渡って右岸の杉、檜等の木立の中を進むと突当りに一軒家が現れる。人気はない。右側は高尾山の開けた急斜面で、切倒された多くの大木が根元を上にもすべり落ちそうに倒されている。その一軒家を廻り込むようにして進むと川面が約10メートル下になる。やがて道が2つに分れるから下にとる。この辺りは梅林。上の方にとると菅原道真にまつわる天神の社に到るが、セメント造りの小さな社があるだけ。地面を這うように延びた木の根に注意しながら進む。橋がかかっている所は深みになっていて子供の水遊び場。此処は“荒井”の里でバス停もあるが、此処からは対岸に家並みが見えかくれするようになる。左側にテントが張れる位広い中州が現れる。水深は浅く、水面より露出の岩もなく流れは極めてゆるやか。やがて流れは急右折し、続けて左折することになる。此処までで川沿いの森林浴は終了。

橋を渡って左岸に移ると公園に出るが、川の形は一変し川面は岸から5メートル下方に、兩岸は切立ったがけとなり、しかも相当な深みとなっている。中学生と思しき数名の少年が競って岸から飛込みをしているから驚

き。上記公園を通り抜けて川辺に戻るのもよいが、公園を後に旧甲州街道沿いの小仏関所跡を訪ねる。即ち住宅街を約100メートル登ると突当りが旧甲州街道で、山側の公園の東角に柵で囲まれた一画があり関所跡なる石碑が建っている。手前に平たい手付石(40×70センチ)、その奥に手形石(20×60×20センチ)が置かれ、案内板に「戦国時代には小仏峠に設けられ富士見関とも呼ばれた。武田、今川、織田など周辺の有力氏が滅ぶと麓に一度移され、その後北条の滅亡で徳川幕府の甲州道中の重要な関所として現在地(八王子市裏高尾町420-1)に移された。この関所は道中奉行の支配下におかれ、元和9年(1623)以降4人の関所番がおかれた。関所の通過は明け6つ(6a.m.)から暮れ6つ(6p.m.)、しかも手形を必要とした。この手形を番所前の手形石にならべ、手付石に手をついて許しを待った、特に“入鉄砲に出女”は幕府に対する謀反の恐れがあるとして厳しく取りしまった。……明治2年(1869)廃止。建物も取りこわされた。」とある。此処にバス停があるので、JR高尾駅までバスを利用するのが賢明。